

一般会計税収（2016年11月末時点）

発表日：2017年1月5日（木）

～16年度前半は低調も、年度後半に反転の兆候～

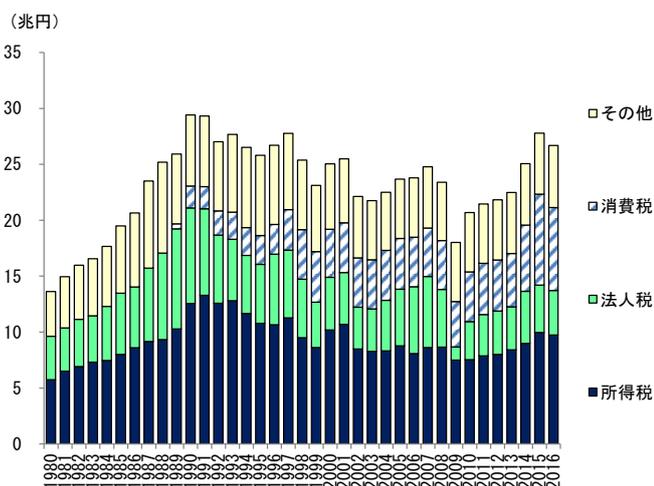
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 星野 卓也
TEL:03-5221-4547

年度前半の税収伸び悩みを確認

財務省から2016年11月末時点の税収額が公表された。11月は3月決算企業の法人税の中間納付月にあたり、法人税がまとまった額で計上される点で重要度が高い。11月末時点の累計税収額は26.7兆円と前年と比べて▲3.6%の減少となった。内訳をみると、法人税が▲6.3%、所得税が▲2.2%、消費税が▲7.3%とそれぞれ減少している。法人税、所得税の減が重石となっているほか、円高を背景とした輸入額の減少を受けて消費税も伸び悩んでいるようだ。季節調整値（筆者試算）の動向をみても、2016年初ごろをピークに減少が続いた。年度前半の税収が低調であったことが改めて確認された形である。財務省はこうした税収の伸び悩みを受けて、既に16年度の税収見込みを下方修正済みだ¹。16年度税収は55.9兆円（当初見込みの57.6兆円から1.7兆円の減額修正）と、15年度決算の56.3兆円と比較して▲0.4兆円の減額と見込まれている。

税収減の見込みとなっているのは、昨年初来の円高・株安の影響によるところが大きい。円高は輸出企業を中心に法人所得を下押しするほか、企業業績の悪化に伴う配当所得の減、株安による譲渡所得の減は個人所得税の下押しにつながったと考えられる。しかし、11月単月ベースの法人税は前年同月比+0.4%と5ヶ月ぶりの増加、所得税は同+1.4%と2ヶ月連続の増加となっており、税収が既に最悪期を過ぎた可能性を示唆している。11月以降進んだ円安・株高も今後の税収にとって追い風となろう。“円安株高水準が持続すれば”という留保つきにはなるが、決算段階の2016年度税収額は第3次補正予算時点での見積もり値から上方修正される可能性もある。“トランプ相場”の行方は財政再建の行方も左右することとなろう。

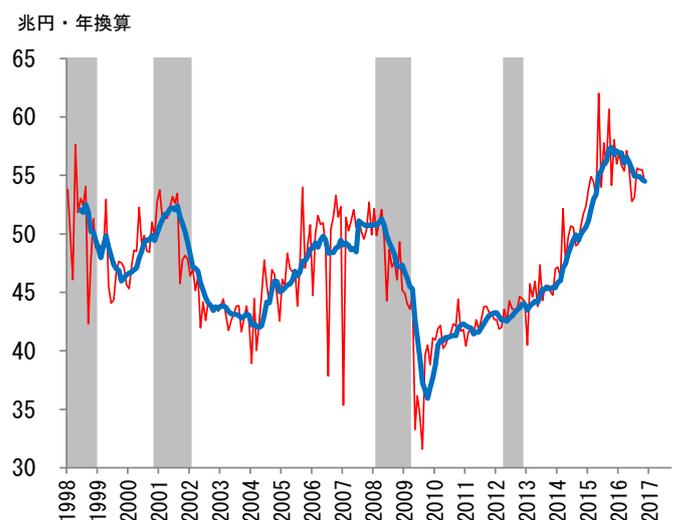
資料1. 税収（各年度の11月末時点累計値）



（資料1出所）財務省「租税及び印紙収入、収入額調」

（資料2出所）同上。季節調整値は第一生命経済研究所。太線は6ヶ月移動平均。シャドー部は景気後退期。

資料2. 税収（季節調整値）の推移



¹ 弊著「[2016年度第3次補正予算案のポイント～“為替次第”の税収のゆくえ～](#)」をご参照ください。